

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 BOX4628
公演団体名	沖縄伝統組踊「子の会」

内容

『観て！聞いて！触って！動いて！体験しよう』をキーワードに行います。

学校の授業の2時限の時間を利用いたします。

《1 時限目》

全児童・全生徒対象に本公演で上演される「琉球舞踊」と「組踊」についてのお話と実演と体験を行います。

また「エイサー」のお話と実演と体験を行ないます。

近年では運動会などで演じられることも増え、だいぶ身近になったエイサーの由来もきちんとお話しします。

沖縄県の伝統芸能「琉球舞踊」「組踊」「エイサー」の3本の芸能をしっかりと体験し、知ってもらうことが目的です。

【琉球舞踊の実演】

特徴である^{ておど}手踊りを体験してもらいます。

「^{おが}拝み手」「^{かえ}こねり手」「返し手」の3種類の手の使い方を続けて行います。



手踊りの風景

【組踊の実演】組踊の特徴的な座り方を男性と女性の座り方の両方を体験してもらいます。



男性の座り方



女性の座り方

【楽器紹介】三線の構造、呼び方、素材についてお話します。また演奏を聴いてもらいます。

【お囃子の練習】

三線の演奏による沖縄民謡『安里屋^{あさとや} ユンタ』のお囃子^{はやし}で声を出してもらいます。

※歌詞の下線の部分

★歌詞

♪サー 君は野中の^{のなか} 茨^{いばら}の花か サーユイユイ (お囃子)

暮^くれて帰れば ヤレホンニ 引き止める

マタハーリス チンダラ カヌシヤマヨ (お囃子)

♪サー 沖縄良いとこ 一度はめんそーれー サーユイユイ (お囃子)

はるなつあきふゆ^{はるなつあきふゆ} みどり^{みどり} しま^{しま}
春夏秋冬 緑の島よ

マタハーリス チンダラ カヌシヤマヨ (お囃子)



お囃子練習の様子

【パーランクーを持ってエイサー体験】

最初に指導者が三線の演奏と唄に合わせて、エイサーの振りを実演し、児童、生徒の皆さんに見てもらいます。

次に皆さんにパーランクーを配って、三線の演奏と唄に合わせて、振りを一つ一つ丁寧に指導します。

パーランクーを持ってのエイサー体験が全体に出来るように致します。そこで1時限目が終りとなります。

《2時限目》

【代表者による本公演のための演舞発表の練習】

本公演当日は地謡じうたいの生演奏に合わせて演舞を行います。

代表者全員にパーランクーを配り、改めて振付をもう一度確認しながら、自分たちで演舞が出来るように練習します。完成度が高まったら演舞の練習は終わりとなります。(本公演の際は代表者のみの演舞発表になります)

演舞の練習が終わったら、次は挨拶の練習です。発表の際には、「はじめの挨拶」と「終わりの感想」を、沖縄の方言で言っいただきます。はじめの挨拶の言葉を考え、それを沖縄の方言で言う練習をします。終わりの感想は、本公演までに考えておいていただきます。これで2時限目が終りになります。



エイサー演舞の練習

★ワークショップの前に安里屋ユンタのCDと歌詞をお渡しいたします。ワークショップ当日までに校内放送などでご使用いただきます。

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、各学校ごとの要望に柔軟に対応し、希望調書に沿った内容で、臨機応変に下記の対応などを行う予定です。

【対応策の例】

- ・時間の短縮 ・対象学年を減らす
- ・児童生徒と指導者におけるソーシャルディスタンスの実施

など

タイムスケジュール（標準）

ワークショップ開始、1時間前に学校到着し着替えと準備を行います。

1時限目：全校児童・生徒の方々を対象に行います。

2時限目：体験者代表による、演舞の練習時間になります。

終了後、着替えと片付けを行い、約30分程度で退校いたします。

派遣者数

主指導者：1名

補助者：4名

スタッフ：1名

合計6名で学校に伺います。

学校における事前指導

ワークショップ開催に向けて、ワークショップ当日、本公演当日に児童・生徒全員で行うエイサー、沖縄民謡の「安里屋ユンタ」歌詞を補助教材としてFAX等でお送りします。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 BOX4628
公演団体名	沖縄伝統組踊「子の会」

演目
<p>本公演演目：おきなわ伝統芸能「琉球舞踊」と「組踊」</p>
<p>【プログラム】</p>
<p>第一部</p>
<p>① 琉球舞踊 上演作品『四つ竹』（舞踊の種類：女踊り）</p>
<p>・振付・監修：志田房子 国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）</p>
<p>② 琉球舞踊『四つ竹』の作品紹介とおはなし</p>
<p>③ 『沖縄ことばクイズ』『楽器紹介』『沖縄音楽ミニコンサート』</p>
<p>④ 『安里屋 ユンタ』児童・生徒、エイサー演舞発表コーナー</p>
<p>打って！唄って！踊ろう！</p>
<p>第二部</p>
<p>⑤ 組踊 上演作品のあらすじとおはなし</p>
<p>⑥ 組踊 上演作品『万歳敵討』仇討物（ユネスコ無形文化遺産）</p>
<p>・作者：田里朝直</p>
<p>・初演：1756年 尚穆王 冊封の宴で上演</p>
<p>・監修：宮城能鳳 国指定重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）</p>

派遣者数

出演者：19名

スタッフ：6名

合計：25名

タイムスケジュール（標準）

9：00 学校到着 → 搬入 → 準備

※10：15～11：45の間に児童・生徒のリハーサル・出演者リハーサル

12：00～ 昼食

13：30～ 本番

15：00 本番終了 → 片付け

16：00 退校

実施校への協力依頼人員

体育館が1階の場合は特にございません。2階以上の場合、搬入および搬出時のお手伝いのできる範囲でご協力いただけましたら幸いです。

演目解説

【第一部】

① 琉球舞踊上演作品「^{よつだけ}四つ竹」（舞踊の種類：女踊り）

★歌詞

♪ 打ち鳴らし 鳴らし

よつ竹は鳴らし

今日や御座出でて

遊ぶ嬉しや



（琉球舞踊「四つ竹」上演シーン）

★見どころ

沖縄の風、空気を最初に感じていただく四つ竹。
竹で作られたカスターネットのような鳴り物、「四つ竹」を両手に持ち、それを「踊りこはでさ節」に乗せてカチカチと打ち鳴らしながら踊ります。

衣装は沖縄を代表する伝統的な せんしよくぎ ほう 染色技法 で染められた、あで 艶やかな びんがたいしょう 紅型 衣装 を身にまとい、はながさ かぶ 花笠 を被り「四つ竹を打ち鳴らし鳴らして、今日はこのようなおめでたいお ざしき 座敷 で踊り遊ぶことの嬉しさよ」と ゆうが 優雅 に華やかに踊ります。

琉球古典音楽「踊りこはでさ節」に乗せて、舞台 しもて 下手 (正面左側) から登場し、舞台中央で踊り、最後は再び下手 (正面左側) に入って音楽が終わるという舞台上での動き方は、伝統芸能の のうがく きょうげん 能楽 (能・狂言) と同じ動きで、こういった能楽などの要素も取り入れて構成されています。



(紅型衣装)



(四つ竹)



(花笠)

★ポイント

ゆっくりとした地方の演奏で、下手から登場する立方の雰囲気、動き(所作)の美しさ優雅さに驚くことでしょう。

また、初めて観る、聞く沖縄の舞踊や音楽は、最初はなかなか目にも耳に入りにくいものです。そこでプロジェクターとスクリーンを利用して、タイトル、歌詞、現代語訳を映してより分かりやすく上演します。

★振付・監修:志田 房子

くにしていじゅうようむけいぶんかざい りゅうきゅうぶよう ほじしや そうごうにんてい
国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)

1987年度 ぶんかちやうげいじゆつさい 芸術祭 しょうじゆしょう
文化庁芸術祭 芸術祭賞受賞

1991年度 ぶんかちやうげいじゆつせんしょう もんぶだいじんしょうじゆしょう
文化庁芸術選奨 文部大臣賞受賞

2004年度 おきなわけんぶんかこうろうしょうじゆしょう
沖縄県文化功労賞受賞

2019年 平成30年度文化庁長官表彰

りゅうきゅうぶよう ちやうりゅう しょだいそうけ
琉球舞踊 重踊流 初代宗家

② 琉球舞踊『四つ竹』の作品紹介とおはなし

案内役(司会)が舞台上に登場します、そして沖縄の方言で自己紹介をします。

続いて沖縄の方言でのあいさつを、男の子は「ハイサイ」、女の子は「ハイタイ」と声を出して児童・生徒のみなさんと一緒に、あいさつを致します。

次に今事業「文化芸術による子供育成総合事業」の趣旨をお話します。

そしてスクリーンに日本地図を写して、沖縄県の位置と、現在公演が行われている地域との距離や位置関係などを確認してもらい、現在の沖縄県の様子や、芸能の歴史などについてお話します。

そして最初に鑑賞していただいた琉球舞踊「四つ竹」の作品について、お話します。



(案内人)

③ 『沖縄ことばクイズ』『楽器紹介』
『沖縄音楽ミニコンサート』

『沖縄ことばクイズ』では、普段なじみのない沖縄の方言をスクリーンに文字を映して、案内役がクイズ形式で行います。

児童・生徒のみなさんから地域の方言なども聞き、お互いに相手の文化を理解することを通して、コミュニケーションを図りながら、言葉の大切さをお話しします。



(スクリーンの文字)

『楽器紹介』では、演奏家の皆さんに各楽器を紹介してもらいます。沖縄の方言では、演奏家の皆さんを「地謡」と呼ぶことを紹介し、その地謡のみなさんが、今公演で使われている、各楽器の構造や音色を一つ一つ紹介します。また沖縄の方言での楽器の呼び方も紹介します。各楽器、以下の写真をスクリーンに投影することで、遠くからでも見てもらえるようにします。



(三線)



(箏)



(笛)



(胡弓)



(太鼓)

『沖縄音楽ミニコンサート』では、沖縄の芸能には欠かすことのできない音楽を、演奏する方々を地謡と言います。

その地謡の演奏により、「琉球 古典 音楽」
「沖縄の 民謡」「現代音楽」と大きく3つに分けて、各ジャンルから1曲ずつ演奏します。



(地謡演奏の様子)

★見どころ

沖縄音楽の演奏に使われる主な楽器は①三線、②笛、③胡弓、④箏、⑤太鼓です。

各楽器をスクリーンに映して、素材や構造、使い方を紹介し、一つ一つの音色をじっくり聞いてもらいます。

沖縄音楽の大きな特徴は、三線の演奏者が唄も担当することです。

他の伝統芸能、能楽(能・狂言)では地謡、歌舞伎では長唄は唄方、常磐津、清元、義太夫は浄瑠璃方と分かれていて楽器の演奏をしながら唄ったり語ったりすることはありません。

★ポイント

沖縄ことばあそびでは、沖縄の方言で身近な言葉をスクリーンに映して、クイズ形式で沖縄の方言に親しんでもらいます。

つづいてミニコンサートでは琉球古典音楽、沖縄民謡、現代曲と演奏し、それぞれの音楽を聞き比べてもらいます。

④『安里屋 ユンタ』 児童・生徒、エイサー演舞発表コーナー

打って！唄って！踊ろう！

ワークショップで代表児童・生徒の皆さんが「安里屋ユンタ」の曲に合わせて行ったエイサーの成果を、地謡の生演奏に合わせて発表します。代表児童・生徒以外のみなさんは手拍子やお囃子など一緒に盛り上げます。

代表児童・生徒のみなさんは舞台袖で、衣装を着け、パーランクーを持ち、準備が整ったら地謡の演奏に合わせて入場します。

いよいよ演舞発表です。

地謡の演奏に合わせてパーランクー(片方に皮のはった太鼓)を使って、

本格的なエイサーファッションの打掛、帯を締めて前に出て演舞を行い、会場が一体となる雰囲気を作り出します。

スクリーンには『安里屋ユンタ』の歌詞を映します。



(パーランクー)



(衣装となる 打掛^{うちかけ}と 帯^{おび})



(演舞の風景)

★歌詞

♪サー 君は野中の^{のなか} 茨^{いばら}の花か サーユイユイ (お囃子)

暮^くれて帰れば ヤレホンニ 引き止める

マタハーリス チンダラ カヌシャマヨ (お囃子)

♪サー 沖縄良いとこ 一度はめんそーれー サーユイユイ (お囃子)

はるなつあきふゆ^{はるなつあきふゆ} みどり^{みどり} しま^{しま}
春夏秋冬 緑の島よ

マタハーリス チンダラ カヌシャマヨ (お囃子)

★見どころとポイント

ワークショップで代表の児童・生徒で練習したエイサー、演舞とお囃子を、地謡の生演奏と合わせるところとなります。

★安里屋^{あさとや} ユンタについて

沖縄民謡で歌詞の意味は琉球王国時代の^{りゅうきゅうおうこくじだい} 竹富島^{たけとみじま} に実在した^{まこと} 絶世^{ぜっせい}の美女と、

安里屋^{あさとや} クヤマと 王府^{おうふ} より 八重山^{やえやま} に 派遣^{はけん} されクヤマに 一目惚^{ひとめぼ} れした 目差主^{みざししゅ} (

かきゅうやくにん^{かきゅうやくにん}) のやり取りを 面白^{おもしろ} おかしく^{おもしろ} 描^{えが} いている作品です。

★エイサーについて

1603年から1606年にかけて当時の琉球王^{りゅうきゅうおう}の 向寧王^{しょうねいおう}の 知遇^{ちぐう}を得た 浄土宗^{じょうどしゅう}の

「袋中上人」が 仏典を 踊りながら 唱える“念仏踊り”を伝え、沖縄独自の 仏典踊りの形態であるエイサーへと発展したと言われています。また、500年以上前の「李朝実録」(1479年)のなかに当時の 那覇の記録として残っており、そのころが始まりだという説もあります。

【第二部】

⑤ 組踊 上演作品のあらすじとおはなし

組踊の鑑賞のポイント、上演作品「万歳敵討」のあらすじ、見どころをお話します。

⑥ 組踊 上演作品「万歳 敵討」(仇討物)

★あらすじ

むかし 首里に 高平良 御鎖という 鎖之側の 位にのぼった、とても 傲慢な人がいました。

高平良 御鎖は 大謝名の 比屋という人が飼っていた、とてもよく走る立派な 名馬を欲しがっていました。

高平良 御鎖はその思いを 大謝名の 比屋に相談して譲ってくれるようにと頼みましたが、断られたことを 恨み、大謝名の 比屋を殺してしまいます。殺された 大謝名の 比屋には、男の2人兄弟がいました。長男の名は 謝名の 子、次男の名は 慶雲と言いました。

父を殺された二人の兄弟は、旅芸人に姿を変えて、仇討ちの機会を狙いました。さて最後はどのようになるのでしょうか。



組踊「万歳敵討」上演シーン

★見どころ

作品の終盤、敵意^{ていきい}を剥き出しにして踊る謝名兄弟^{じやなきょうだい}の息の合った舞踊、所作
それを必死にかわそうとする高平良御鎖^{たかでーらうざし}、いよいよ謝名兄弟^{じやなきょうだい}が刀を抜き高平良御鎖^{たかでーらうざし}に
襲^{おそい}い掛かる緊迫^{きんぱく}したシーンです。

★ポイント

字幕的役割として、プロジェクターとスクリーンを利用して全てのセリフを
映して物語を分かりやすく上演します。

組踊の『万歳敵討』は、沖縄に伝わる芸能の要素^{ようそ}が全て入っている作品です。
要素とは[1]琉球古典語 [2]琉球古典音楽 [3]琉球古典舞踊 です。

★監修:宮城能鳳^{みやぎのうほう}

国指定重要無形文化財「組踊^{くみおどり}」保持者(総合認定)

2009年 重要無形文化財「琉球舞踊^{りゅうきゅうぶよう}」保持者(総合認定)

2019年 日本芸術院賞受賞

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、各学校ごとの要望に柔軟に
対応し希望調書に沿った内容で、臨機応変に下記の対応などを行う予定です。

【対応策の例】

- ・時間の短縮 ・対象学年を減らす
- ・児童生徒と指導者におけるソーシャルディスタンスの実施
- ・事前ワークショップが実施できなかった場合、本公演の演目を調整し全員での体験を取り入れる

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

『安里屋^{あさどや} ユンタ』 児童・生徒、エイサー演舞発表コーナー

打って！唄って！踊ろう！

ワークショップで代表児童・生徒の皆さんが「安里屋ユンタ」の曲に合わせて行ったエイサーの成果を、地謡の生演奏に合わせて発表します。代表児童・生徒以外のみなさんは手拍子やお囃子など一緒に盛り上げます。

代表児童・生徒のみなさんは舞台袖で、衣装を着け、パーランクーを持ち、準備が整ったら地謡の演奏に合わせて入場します。

いよいよ演舞発表です。

地謡の演奏に合わせてパーランクー（片方に皮のはった太鼓）を使って、

本格的なエイサーファッションの^{うちかけ} 打掛、^{おび} 帯を締めて前に出て^{えんぶ} 演舞を行い、会場が一体となる雰囲気を作り出します。



演舞発表の様子

児童生徒とのふれあい

プログラムに、「沖縄ことばあそび」（方言）のコーナーがあります。

案内役が積極的に児童・生徒のみなさんと言葉を交わしてコーナーを進めます。

終演後に学校側からのご意向があれば、出演者の皆さんとの記念撮影を行います。

終演後に代表者からの感想を聞いております。

感想文などがある場合は、出演者の皆さんに読んでいただいております。